

かさおか

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311
FAX 66-1314



平和の鐘(広島)

おつとめ奉仕者の増員

- ・一人ひとりが日々に真実を尽す
- ・布教によるおつとめ奉仕者の増加
- ・後継者講習会への参加による奉仕者の増加

立教170年
9月号

今年の夏も親里は25万人を越す子供達の歓声と鼓笛の響きで賑わった。笠岡でも1600人を越える人達が帰って来た。今年も途中で、台風が心配されたが、一度も親里パレードや行事を中止することなく、最終日まで暑い日々が続いた。おちばがえり実行委員、少年会はおちばに帰って来た子供達に詰所でも喜んで貰いたいと今年も早くから準備して子供達を待った。今年も詰所玄関前に設置された大きな四枚の絵の看板は多くの子供達の目を楽しませ、また今年も期間中、



大盛況だった 詰所受け入れ行事

朝のおつとめ、わかぎひのきしん、詰所内でのクイズ、模擬店、パターゴルフ、ビデオ上映などの行事に子供達の笑顔を見ることが出来た。さて、詰所内クイズに参加する人数が毎年増えて嬉しいばかりです。今年も三百人近い子供達から解答が集まりました。今年も問題がやさしかったのか各クラスで満点は何人も出ました。最高得点者の名前と教会名、及びその中から各クラス五人の厳選なる抽選の結果を14ページに掲載致します。当選者には図書カードが渡されます。尚、クイズ(次ページ)と答え(14ページ)も掲載致しますので、子供達に知らせて上げて下さい。

最後に今年も沢山の方々のアイデアと尽力のおかげで行事を立ち上げ遂行し、多くのひのきしんの人達によって模擬店等を運営でき子供達に喜んで貰える事が出来ました。この紙面をお借りしてお礼を申し上げます。ありがとうございます。

(こどもおちばがえり実行委員
上原 志郎)



クイズの問題

【小学校低学年】

1. 立教170年「じもおぢがえり」が開催されるのは、平成19年7月26日からいつまででしょう?
2. 立教170年「じもおぢがえり」のテーマは、「あひがしあひねるよるにび○○○○」です。○に当てはまる5文字を書いて下さい。
3. 親神様のお名前は「○○○○」様と申し上げます。○に当てはまる4文字を漢字で書いて下さい。
4. 真柱様のお名前は?
5. 教祖(おやさま)の名前は?
6. 雪がとけるよ来るものなんだ?
7. やぶむしやぶむしほめらるものなんだ?
8. 「ライオン」「キリン」にはおきなはい、「ゾウ」「カバ」「トラ」「エゾウ」「シマウマ」ならおきなものなんだ?
9. 暗くなればなるほどよく見えるものなんだ?
10. 「ニがらへひなかくしおま。」は何でしょう?

【小学校高学年】

1. 来年2008年にオリンピックが開催される都市はどこ?
2. 車輪が一つだけついた手押し車のことを、ある動物の名前を取って何車というでしょう?
3. ゲゲゲの鬼太郎の像が建つ「水木しげるロード」がある鳥取県の都市は? ①小松島市 ②米子市 ③倉吉市 ④境港市
4. 世界で一番多い血液方は? ①A型 ②B型 ③O型 ④AB型
5. 「立教170年「じもおぢがえり」のテーマは、「あひがしあひねるよるにび○○○○」です。○に当てはまる5文字を書いて下さい。
6. 教祖(おやさま)のお名前は?
7. 「私は天理教少年会員です。教えを守り、ひのきしんにはげみ互いにたすけあって、立派な○○○○に育ちます。」○には何が入るでしょう?
8. ひいたり・かけたりできるのに、たしたり・わったりできないものはなんだ?
9. 顔が6つ、目が21 なんだ?
10. メロンパンとあんぱんと食パンが歩いていました。そこで後ろから声をかけました。ふりむいたのは誰?

【中学生】

1. □に漢字を一字入れ四字熟語を二つ完成させなさい。★自□自□
2. □に十××を入れ、答えが10になる式を完成させなさい。★6□4□3□2□=10
3. 日本の県には「島」がつく県が5つあります。その県名を5つ全部書きなさい
4. 冬至の日に食べるとよいとされる野菜はかぼちゃですが、お風呂にいれるとよいとされる果物は何でしょう?
5. 日本名を小泉八雲といったギリシャ出身の作家は? ★①ラフカディオ・ハーン ②ウィリアム・アダムス ③ヤン・ヨーステン ④フランス「ル・ザエル
6. 「きな粉」は何の粉 ★①小豆 ②大豆 ③そら豆 ④えんどう豆
7. 頭の回転が早い人を評して「目からどこに抜ける」といっ? ★①耳 ②鼻 ③口 ④入
8. トマトのシエア8割以上をしめている品種の名前は ★①桃太郎 ②金太郎 ③長太郎 ④ハム太郎
9. 77・49・□・18・8とある規則にしたがって数が並んでいます。□に入る数字を入れて下さい。日本の国民の休日で一年の最後の祝日は? ★①体育の日 ②勤労感謝の日 ③天皇誕生日 ④文化の日
10. 日

子どもおぢばがえり

品治分教会 渡邊 泰造

今年も暑い夏の象徴とも言える第54回子どもおぢばがえりに参加させて頂きました。

私どもの教会からマイクロバスでの帰参は今回で5回目の迎えることができました。

そもそもマイクロバスでの帰参は私の仕事の都合で土日を利用して、しかも金曜日の夜に教会出発、10時すぎに詰め所に着くといった感じで、詰め所の方や、お休みになられている方にも迷惑をおかけしております。

バス団参の始めは20人行くか行かないかでしたが、今年はおかげさまで27名、内少年会員(わかざ込)21名の守護を頂きました。初めてのお子さんも9名参加して頂きました。

最近おぢばに少しでも長く居させて頂きたいとの思いから、色々なお楽しみ行事に参加させて頂き、帰りには寄れば寄る様にさせて頂いております。

実質一日半での参加なので数あるお楽しみ行事のほんの少ししか回れませんが、子供たちは大変喜んで、また来年も出るね。と初めて参加した子も言っていました。

毎年おぢばがえりさせて頂くときに3つのテー



マ、生きるよろこびをあげたい、仲良く助けあいます、物を大切にします、を頭に置いて子供たちに接していけるように心がけているつもりですが、そんな中、長い時間とともにいるとどうしてもいじこざがいへらがあるのですが、そんな時まわりの友達が「陽気へらひり陽気へらひり」と言っているのを見ておし込み行事や、お

楽しみ行事を通じてお道のことを子供なりに少しでも理解してくれているのだとうれしく思わせていただきました。

最後に今年は帰りに迷子を出してしまい、あらためて預かる側の責任と、喜んで帰ってもらおう為にもっと心をつかわせて頂かないと、と感じさせて頂いたおぢばがえりでした。

いじめっ子のおぢばがえり

六年 武内 ゆかり

今年の高屋隊のおぢばがえりは、五十六人の子どもが、参加してくれました。その中で、私の同級生は、十四人、その中に学校でも有名な、いじめっ子がいました。

その男の子は、学校でけんかをしたり、弱い子をいじめて泣かしたり、先生が注意しても、その子の親に言ってもぜんぜん聞いてくれないし、先生もあきらめていました。

その子が初めて、おぢばがえりに申しこんだのは、一昨年でした。

私は、その子の事をよく知っていたので、子どもおぢばがえりでだれかが、いじめられないかと心配していました。でも、出発の三日前に、参加を取りやめる電話がありました。

家からいじめっ子が来たことを車に来て、せつしよ



くし、手の骨を折ったから参加できないという事
 でした。
 私は、思いつきはいけなけれど、ほっとしました。
 昨年、春、よその学校から転校して来た男の子
 がいました。
 そのいじめっ子は、転校して来た男の子とい
 わるを聞いていました。

そのいじめっ子と転校して来た男の子が、昨年
 のいじめおちばがえりに「一人とも参加しました。
 そのいじめっ子は、今度は事故もなく、初めこ
 どもおちばがえりに参加しました。
 そのいじめおちばがえりでも、学校と同じように、
 そのいじめっ子をいじめました。
 その子について、おちばがえりは、楽しいもの
 とはなりませんでしたが。
 私は、その子をさそわなければよかったと思
 いました。
 昨年の悲しい事があったので、今年は、そのい
 じめっ子が参加しつねになかったらいいなと思
 いました。ところが、しめ切りの直前になって学
 校で、その子がポンと申し込み書をわたしてしま
 した。
 お母さんが一生けん命、ほつちゅうしたのを、
 参加者がふえたのはうれしくて、私は昨年とい
 うのが、思えばたいへんうれしかったです。
 このいじめおちばがえりが始まりました。
 私は、だれかがいじめられなかつた、心配してい
 ましたが、たいした事もなく泊三田のいじめお
 ちばがえりが終わりました。
 参加しつねれた子ども達は、みんな喜んで帰
 りました。きつと、おちばの神様が守って下さった
 んだらうと思えます。
 私が不思議に思っているのは、あれだけたくましく子



ども達が、全国から帰って来て、何日もおちば
 生活するの、事故や病気で困ったという事を、
 聞かないという事です。
 おちばには、神様があらわ、楽しみに帰ってき
 た子ども達を、温かく見まもって下さっているか
 らだと思えます。

ありがとう

海松ヶ岡分教会 森本 勉

先日たくさんの方から御協力いただき新しく隊服を作ることができたことを改めて御礼申し上げます。そして、食事や段取りなどなど多くの方々のお力添えにより鼓笛活動ができることを心より感謝しています。ありがとうございます。

長年、鼓笛にたずさわらせていただき、たくさんの想い出があるなかで、この一年間の事をすこし話させていただきます。

自分に言い訳しないで、本気で鼓笛に力を注ごうと思ったのが一昨年のオンパレードが終わった2、3ヶ月ぐらいだったと思います。いろいろいきさつがありもう一度やろうと決め、岡山教区の鼓笛指導者研修会に勉強させてもらいにいきましました。その時来られていた一人の講師の方とお話させてもらいました。その方は自分で鼓笛隊を立ち上げ、はじめは一人でポンポン ファイフ ドラムを教えていたそうです。たくさんの苦労の中、あきらめずに、はじめは銅賞だった隊を8年ぐらいで金賞に導いたそうです。その講師にあなたは子供たちに何を伝えたい



の?と質問されたとき答えることができませんでした。その講師は僕たちの鼓笛隊は子供たちに感動を伝えたいんだとおっしゃったときに、自分は今まで何を子供たちに伝えられたのかすごく考えさせられました。一生懸命やってきたつもりだけど、音楽がわからないからできないとか、何かできない言い訳を心のどこかで考えていつもオンパレ終わってまた来年がんばろうって自分をなぐさめていました。そんな気持ちでやっていたら毎年毎年同じ繰り返しで子供たちに心から喜びや悔しさなんて伝えられないと思い、もう一度自分が出る事は言い訳しないで本気でとりくみました。あまり音楽がわからず、ファイフが上手く吹けないのでわからないことは子供たちに教えてもらい、他の隊の練習をビデオにとって勉強して子供たちに伝えていきました。あと、できる限り子供たちの中に入ってコミュニケーションをとることを心がけています。子供達と休憩時間、ドッチボールや鬼ごっこなどして遊んで、そのなかで声をかけていくと、だんだん子供たちから学校のことやいろんなことを話してくれます(子供たちの話は結構おもしろい)

嬉しいことに子供たちがよく家で練習してきてくれます。上手な子に新しく入ってきた子たちに教えてあげてというところ、一生懸命教えてあげ(スタッフより厳しく、教え方が上手いかも?)またスタッフがいなくて子供たちにまかせると、自分たちで考えながら練習してくれてとても嬉しかったです。指導にあたってくださるスタッフは鼓笛隊員OBや子供さんを連れてきてくださるお母さん方でちゃんとした音楽経験もポンポンの経験も無い人ばかりですが、忙しいなかポンポンの振り付けを考えて指導してくださったり、幼児の子の手をもって行進練習してくだされたり、自分たちが出来る事ややった事がないことにも子供たちに一生懸命教えてくださり、生活面でも子供たちに心を配られています。(すくじく嬉しいです)

今年子供たちの努力に負けないな一っつちよっつとプレッシャーを感じていました。去年ぎりぎり金賞がとれなかったのが悔しくて今年はずっと、多くの隊員が金賞を本当にとりたいという気持ちが行動にあらわれていたように思います。何のため? 何を目標に練習しているのかが隊員みんながはっきりわかれば取り組む姿勢が違ってくると思います。汗かいて目標むかってみんなで一生懸命努力したからこそ、今年の表彰式、一緒に喜び、感動できたと思います。みんなのこころにこの喜びが一生思い出となってくれるとあきらめ

ずじやうつてきて良かったと思います。

鼓笛活動を支えてくださる多くの方、汗かいて一緒に頑張ってくだされたスタッフのみんな、子供たちに本当に感謝しています。ありがとうございました。

また自分を高校1年生から鼓笛スタッフに導いて育ててくれた森本実さんに心から感謝しています。ありがとうございました。



鼓笛活動に参加して

興明分教会 吉岡 八恵

今から五年位前に、初めて春の鼓笛合宿に子供達を連れて参加させて頂きました。それから直轄の鼓笛の練習に参加するようになりました。未女は一才になっておらず、いざ大教会に行ってみても参加者も決して多くはなく、ポンポンを習うということになったものの、結局おちばで作られているチームソングのビデオをかけながら親子で練習というのが始まりでした。時と同じくして芳井の教会から子供達が参加されるようになり、次第に隊員が増えていきました。合宿に参加する人が増えるの外から連れて行く子供達に対して責任があるのでお互い一緒に泊まって世話どりをさせて頂くことになりました。最初のうちは、私も小さい子供達を連れて笠岡まで行き、一緒に練習をして、夜泊まり、又、連れて帰って家事をこなすのが苦痛で、隣に住む妹に上の二人の子供を連れて行ってもらう夕食の準備をして待つ事が多かったです。そうこうしながら何年か合宿に参加していくうちに、子供おちばがえりに参加してうちの子供達の演奏するのを見て、私も鼓笛を習いたいと友達が一人、又一人と増えて今迄に教会以外で5人の子供が参加しています。学年が上がるにつれてなかなか合宿に参加できない現状にあります

が、子供達は鼓笛が大好きで合宿の日を心待ちにしています。最初は、隣に住む妹が私が運転してワゴン車一台で通い始めたのですが、だんだんギューギューになってきて、最近は車二台で通うことが増えました。車の中は、女の子ばかりいっつもにぎやかで、けんかも少なくありません。女同士ということもあって難しいところもありますが、合宿に行く前に神殿で気がついたことをひと言、ふた言お話させてもらって出発します。私自身今迄鼓笛活動に参加したことはなかったのでファイフ(横笛)を吹く事もできず、特に何かの楽器を演奏できるということは全くないのです。しかし、教会と隣に住む主人の弟の子供達(女の子が計7人)は、夕ひとめ後毎日練習したり、指導者役と隊員役になりきりってマーチングの練習をしたり、妹達のポンポンの振り付けを覚えて踊ってみたり、小さな鼓笛隊のように、楽しみながら練習をし、うまく演奏できるようになってきました。近年何とか金賞をとりたいという事でスタッフ、隊員が心をあわせて一生懸命練習してきました。興明では、ごどもおちばがえり参加者の半分期が鼓笛に関わっており、誘った友達を一日半ほどうっておくこともできず、スタッフも少ないという都合上、昨年より、無理をしてごどもおちばがえりとは別に鼓笛の日程に合わせておちばへ出させて頂くようになりました。それと同時に鼓笛に

出ている子の保護者の方に「一緒に見に行かないか？」と声をかけさせて頂いています。折しも今年は、鼓笛オンパレードにて思いもかけない賞を頂き、喜びと感激はひとしおですが、誘った保護者の方と一緒におちばがえりさせて頂き、子供達の頑張っている姿を見て頂けたことが本当に嬉しかったです。たまたま鼓笛に関わり、新しい隊服を着て金賞を頂いた年に居合わせましたが、これも長年鼓笛活動を支えて来られた方々の努力の賜物と実感させて頂いております。これからも細々とではありますが、鼓笛活動に関っていけたらと思っています。



、 奇 跡 、

芳井分教会 佐藤 和代

「優秀演技賞は、ポンポンの審査の点が80点以上であるという事です。」

と、ポンポンの講評をされている前方から聞こえてきた。

『へえー、そーなんだ。』一緒に評価待ちをしているHさんと目を合わせて笑みがこぼれた。

そして、いよいよ我々笠岡むつみの講評である。まず第一声に、「今日は優秀演技賞おめでとうございます。」と審査の先生。

『へえー、優秀演技賞をとると、おめでとうございます！って言ってもらえるんだ。』と心の声。次に、「とても元気がよかったですね。でもちょっと元気が足りて行進の時の手の位置がかなり高い位置まで上がっていたようです。ど…、クスクス」

『へえ、去年の講評では『基本的なものができていませんね』と、マイナス面からの評価だったのに…。ス「イ!! 雰囲気が違う。』

「あと、笑顔が、ちょっとぎこちなかったのですね。自然な笑顔が、つくれるようになっていいと思います。」

『うれしくい！ぎこちなくても、笑顔にみてもらえたんだ。去年までは、何度も何度も笑顔の練習をしているはずなのに、いつも笑顔がなっていないわね。続けたら我々ポンポンも、笑顔を確認してもらえたんだ。ス「イ!!』

「あと…、少し内またで歩く子がいたのよ。つま先からの行進を心がけて下さい。」

『もうなんだよな〜。なかなか
どうしても足の運びが難しいんだ
よね。つま先おに(ごっこ)での訓練を
もっとしないと〜。』

『今日の演技で、何か思われる事が
ありましたか?』

はじめて私の出番! 「ごや〜、
オンパレの演技では、ごままま、一

度もあんなに皆がそろった事な
かったのに、ビックリしました。
練習でもあれほどきれいにそ

ろった事なかつたんですよ。』
『しかし、本部のポンポン講習来
ておられましたよね〜』

『そーなんです! 先生にいろいろ
と教えて頂きました。へ〜リ!!』

『覚えてくれてたんだ〜 本当に、本
部の講習や教区の講習は、勉強に
なったよね。』

そして調子に乗り余計な一言!
『去年は、審査の点は60点代だった
ので、今年は70点代を目標として
いました。とにかく、私たちが方が
ビックリなんです。本当にありが
とうございました。』

すると、先生方は、顔を見合わせ

て... 「ご〜ご〜ご〜ご〜ご
をされ、手元の資料にちらりと目
をやられたような気がする。

『しまった〜。もしかして、
一瞬だけ上手に踊っていたかもし
れないが... やはりよく思い返す
と、基本は、まだ出来ていない。
採点が甘すぎたかも... 1年
前に60点代が急に80点とれるは
ずはない... と思われたに違いな
い。』

Hさん共々深々とお礼申し上げ
て、引き止められる前に急いでそ
の場を後にした。

今現在あの日の講評の訂正は聞
いていないのだが、これから先は、
あの日の奇跡が実力へと変わって
いけるように、スタッフ共々頑張
らなくと〜けない。

踊りたくて仕方のない彼女たち
の一番素敵なところを見てもら
える様に、スタッフの一員として、
しっかりと磨いてやりたい。

香りのよいシャンプーで、時には、
粗塩で... きゃ〜

笠岡むつみバンザーイ!!

笠岡むつみバンザーイ!!



修養科生の声



夏の修養科を過ごして

第七九四期修養科生 永戸 大希

私は、この修養科を通らして頂いて、色々な事を学びました。

その一つにおつとめに対する姿勢が変わりました。教校学園在中の頃は、覚える事が精一杯で感謝などは、あまりしていませんでした。しかし、修養科にきて毎日、おつとめや修練などをしていく内に、みかぐらうたの意味や教祖の親心あふれる思いなどを理解できるようになってきました。私が修養科に來させて頂いている間、父と母が仕事の忙しい中、毎朝教会に足を運ばせていただき、朝づとめを夫婦そろってつとめさせて頂いています。父は、私が修養科にくる前、ひざに水がたまり、足の身上を頂いていました。しかし、毎朝参拝させていただいているおかげで、全快の御守護を頂きました。

今思えば、父が身上を頂いた頃から神様に引き

よせられていたのだらうと思いました。

修養科に來て一番感じた事は、当たり前は当たり前ではないという事でした。朝起きてひのきしんをさせて頂く事がどれだけありがたい事かを感じました。クラスの中には、身上を抱えて來られる方もたくさんいます。しかし、この暑い中でも、勇んでひのきしんをされている姿を見て、自分は健康な体を借りさせて頂いているのだから、体が動く事に感謝して、何事も勇んでつとめさせて頂こうと感じました。

修養科の授業に感話という時間があります。その時間では、自分の信仰体験を話すという時間でした。色々な人の話を聞かして頂く中で、信仰というのはすばらしい事だなぁと改めて思いました。

私は、たくさんさんの感話を聞かして頂き感じた事は、何事も喜んで通らせて頂こうと思えました。それも陽気ぐらしへの第一歩だと感じたからです。

最後に私がこの修養科に來て、一番の大きな行事はこどもおぢばがえりでした。ひのきしんの部署は炊事本部という事もあって、毎日大変でしたが、こどもたちが喜んで食べる姿を見て、私も喜んでひのきしんをさせて頂く思い勇んでつとめさせて頂き無事に十日間を過ごさせて頂く事ができました。それに炊事本部でひのきしんをさせて

頂く事は滅多にない事なので貴重な体験もできて、良かったです。

修養科生活も残り二週間ほどなので、気を引きしめなおして、勇んでつとめさせていただきたいと思えます。



子供の身上を通して 学んだこと

第七九四期修養科生 猪原 恵み

子供を連れての修養科ということで、最初は不安でいっぱいでしたが、詰所の先生方をはじめ教養の先生、また同じ修養科の仲間にかけて頂き毎日ありがたいなぁと思う中で、何よりも親神様、教祖にお守り頂いたおかげで、3ヵ月親子共々無事に通らせて頂いたのだなぁと心から感謝しています。私はこの3ヵ月、いつも子供のことを考えていました。まだ2才という年齢なので体調のこととはもちろんですが、いつも、暑くないかまた寒くないか、また食事の量など細かい事も気にか

て心配していました。この3カ月で子供に、何度か身上を頂き、またけがもたくさんしました。熱が3日程続き、食欲もなく、ぐったりしている息子を見ると、できるのなら代わってあげたいと何度も思いました。毎日おさづけを取り次ぎ、また先生にも取り次いで頂き、4日目は熱も下がり、段々と回復し、元気になるって走る息子の姿や、ごはんを食べる姿を見て改めて神様のご守護は本当にありがたいなあと感じました。けがも何度かあり、窓からベランダへ落ちたり、転んで口の中を切ったり、指をドアにはさんだり、その度に母親の私は、泣いている息子に何もできず、ただただ慌てるばかりでしたが、どのけがも軽いけがですみ、大難を小難にさせて頂けたのだと思います。ごはんが食べられること、元気に走れることはあたりまえではなくすべて親神様のご守護のおかげで、身上や事情になるとその時は不足に思ってしまうがちになります。が、やっぱり最後は、感謝の気持ち忘れてはいけないというこ

とを子供の身上やけがを通して教えて頂きました。また、無事に通らせて頂けるように毎日のおつとめでお願いするということ、そして信心し通らせて頂くことが大切だと思しました。おふでさきの中で、「月日にハセかいちううハみなわが子 かハいい、ばいこれが一ちよ」というおうたがあります。親にとって子供はともかわいくかけがえのないもので、子供と共に楽しみ、子供を励まし、時にはかわいからこそ子供に注意し学ばせる、親神様も一緒のお気持ちなのだ、自分が親になって改めて親のありがたみを実感しました。そして、夫婦あつての子供なので、夫婦が心を一つにして、助け合い励まし合うということが陽気ぐらしの道につながるのだと思います。これから教会生活の上において色々なこともあると思います。しかし辛い事、嫌な事、悲しい事も心をすきやかに澄ましてどんな事でも楽しいと思えるように通らせて頂き、しっかりと親孝行させて頂こうと思います。



こころの詩

県命な子等のパレード応援に
暑さ忘れて今朝ぢばに発つ

山の端に夕日真赤に沈みゆく
さあ急ぎましょ 夕づとめ時

東 悠 田 林 美智子

▼残 照

作 寺下 宏一

友よ便りなく今どこに

還暦も古稀も過ぎ

思い出だけ多く残して

秋 霜降る今寂し

山々は赤く色づき

枯葉肩に舞い散る

友よ元気か今どこに

新しき年は来たが

思い出だけ多く残して

今年暖かいと人は言うが

老の身に寒し

粉雪髪に舞い散る

▼表紙の切り絵

芦品分教会 佐々木ふさ子さん

(よふぼく)

天理教 TENRIKYO THREE DAY COURSE

三日講習会 DE SMILE

三日講習会Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを 終えて

甲井分教会 山田 要

去年教祖120年祭の年、天理時報で知り年祭の年に、どうしても出させて頂こうと思いい会長に御願いました。6月末、講習会(Ⅰ)に出させて頂き、続いて8月末、講習会(Ⅱ)を修了、同時に11月、(Ⅲ)を申し込みましたが定員で、今年1月に(Ⅲ)を修了させて頂きました。(Ⅰ)(Ⅱ)(Ⅲ)共、班付の先生又、世話係の先生、本当にきめこまかく御世話を頂き、講習に集中する事ができました。

又、(Ⅱ)では教祖逸話篇の中から寸劇も致し、(Ⅲ)では奈良市内にて路傍講演をさせて頂き、3日、3日の非常に短い日数でしたが、本当に充実した内容でした。

(Ⅲ)で天理教の用語で何か一つと言う事で「心一つが我

がの理」と書かせて頂きました。それは、身体は親神様のかりもの、心だけ自由にと守護下さっております。

自由だからこそ、責任もあります。それは用木として、社会人として、責任を果たす。それが心の自由を与えて下さっているとおもいます。

(Ⅲ)を終了後、御礼づとめを、させて頂いた時、今までにない感動を覚えました。

父、母が通った何十年のこの道、真、真実の道、ましがいのない道だったと父、母に感謝しております。これからも会長に懸命についてゆき、教会の上丹精させて頂こうとおもっております。



三日講習会に参加して

興明分教会 吉岡 弘子

私は、結婚が決まった頃、修養科へ行くかどうか

かという時期があったのですが、事情あってまた行ける時が来たら、という事になりました。出産、育児と女性は家庭の都合により、なかなか修養科へとは思いつれない状況だと思います。現在のよくな核家族化の中で、女性が安心してお道の勉強ができる講習会ができたという事で、私は二年前の四月に三日講習会Ⅰに参加させて頂きました(その当時、笠岡大教会からは初めての参加ということでした。)

修養科へ行けなかったぶん、少しでも所属教会(主人の実家)で、お道の事を学ぼうと、鳴り物・手おどりやおふでさきに触れさせて頂いていましたが、三日講習会は、参加しやすいように、子供の休み(春休み・夏休みなど)や連休などに掛けて下さっているので、受けたいと思う気持ちがあれば、1年の日程表を参考に申し込み事ができます。そして、小さいお子さんがいても、託児することが出来る事が何よりありがたいと思います。ただ、募集人員が決まっているので、日程発表と同時に申し込みが必要で(天理時報にも申し込み状況が時々掲載されます)。

さてその中身は…?

Ⅰでは、「気づき」。Ⅱでは、「深め」。Ⅲでは、「広め」がテーマとなっています。講義を聴くだけの受け身的なものではなく、講義の後の「ふりかえり」や「グループタイム」で、話し合いをし

ます。そのグループも6人で1班を構成し、世話係の先生が1人ついて下さいます。三日間の生活を共にしますので、共に学び、考え、お互いに心の成人ができるように工夫されています。

私は話し下手で、人前で自分のことを話す事などとても無理な事だと思っていましたが、皆さんの話を聞かせていただくことで、緊張感もほぐれ、話しやすい雰囲気になっていきました。自分にとって家族とは何か？ 自分の入信のきっかけは？ など、普段余り考えない事に取り組み、今ある現実感謝することができるようになりました。

三日講習会で、一番感激したのが1だったので、過去から現在にかけて、自分の中で天理教がどのように関わってきたのかを考える事によって、単なる偶然ではなく、今、自分がここにいるのも全て親神様のお働きがあるからなんだと思わせて頂く事ができるようになりました。班の皆さんのお話を聞かせていただくことも、私にとっては大変な勉強になるものでした。色々な年代の方々の色んな人生を聞かせていただくことで、皆さん頑張っておられるんだあと、勇気が湧いてきました。当たり前だと思っていた事が、ありがたいと思えるようになると、自分が変わったように思います。家族や、周りの人との関わりも、自分の成長のために不可欠なものである事に気付く

事ができました。

Ⅱのコースでは、教祖について学ぶ講義があります。記念建物の見学や、教祖逸話篇の中からグループで演技発表をする事がありました。当時の教祖様のご苦労話や、ひながたの道のお話を伺う事により、教祖のお気持ちにふれさせて頂くことができました。子供を思う親の気持ちのように、教祖の分け隔て無く大きな心で、優しく包んで下さっているということに感謝させていただくことができました。

一番難しいと思っていた「元の理」についても、分かりやすく教えて頂きましたし、講師の先生方がお話し下さる体験談、特にご苦労されたお話を聞かせて頂き、大きな「ふし」がある人ほど、それをバネにされているんだなと思わせて頂きました。

Ⅲのコースでは、講義で学んだ事を今度は伝え、広める事を練習させて頂きます。「天理教の中でどのような事を伝えたいか？」または、「お道の教えで好きな言葉は何か？」といったテーマでグループ内で練習をし、最終的には見知らぬ人へ天理教の信仰の喜びを伝える事を練習しますが、やり終えた時の皆さんの晴れやかな顔が、全てを物語っています。達成感やら充実感やらで本当に嬉しそうです。

三日講習会は、9日間で修了しましたが、その

場だけでは勉強しきれない内容をまとめて下さっているのが濃く、もっと勉強したいと思えるものになっています。実際に講習会を受け、次は修養科へと進まれる方が何人もおられました。

天理教では、「人に助かってもらいたい・喜んでもらいたい」という心遣いや行動が、結果として私達自身が助かっていく元になります。「人をたすけて、我が身たすかる。」と、教えて頂きました。

私の体験談を原稿にし、読んで頂いて、「行ってみようかな？」とか、「あの人にすすめてみようかな？」と思って頂けたら、私の「広め」が役に立てたという事です。

このような場を与えて下さり、ありがとうございました。



最高得点者及び当選者(青字)

【小学校低学年】

1. あら木 いく海 (久松)
2. みやもとやわら (廣町)
3. 吉岡 りの (照陽)
4. なかつか あみ (福芦)
5. ゆあさ はるこ (簸川)
6. 酢谷 大洋 (簸川)
7. 加納 逸太 (簸川)
8. 吉岡 優樹 (照陽)
9. 吉岡 稜真 (照陽)
10. ふじおか まほ (廣町)
11. まごころそつた (廣町)
12. わち あやか (福芦)
13. 今川 彩花 (福芦)
14. 壇上 優里奈 (福芦)
15. 加納 敬太 (福芦)
16. 小川 せゆ (芦品)
17. 細羽 由菜 (御野)
18. 森田 しゅうへい (川島郷)
19. もりわきかいと (錦ヶ原)
20. 森本 みさき (海松ヶ岡)
21. 河田 晃光 (福満)

【小学校高学年】

1. 西 みのり (簸川)
2. 上田 凌平 (海松ヶ岡)
3. くわ田 いつき (福芦)
4. 中村 麻結 (多古浦)
5. 手嶋 豊 (西伯)
6. 瀬尾 僚介 (福芦)
7. 宇根 みのり (福芦)
8. 南田 華那 (福芦)
9. 竹本 直紀 (福芦)
10. 信岡 裕紀 (福芦)
11. 桑田 拓 (福芦)
12. 小林 茜 (福芦)
13. 棗田 直路 (福芦)

【中学生】

1. 三 ますみ (雲東)
2. 戸崎 里奈 (弓ヶ濱)
3. 栗原 依り弥 (福芦)
4. 三代 いつみ (米美)
5. 山本 みはる (鶴真)



クイズの答え

【小学校低学年】

- 1 8月4日
- 2 たすけあい
- 3 天理王命
- 4 中山善司様
- 5 中山みき様
- 6 春
- 7 記録
- 8 しりとり
- 9 星
- 10 庭

【小学校高学年】

- 1 北京
- 2 ねこ車
- 3 ④境港市
- 4 ③O型
- 5 たすけあい
- 6 中山みき様
- 7 よふばく
- 8 いす、ふとん
- 9 さいころ
- 10 食パン(耳があるから)

【中学生】

- 1 自画自賛・自由自在・自給自足・自業自得・自問自答・自暴自棄・自分自身・自作自演
- 2 6 × 4 ÷ 3 + 2 = 10
- 3 福島県・島根県・広島県
- 4 ゆず
- 5 ①フフカデ
- 6 イオ・ハーン
- 7 ②鼻
- 8 ①桃太郎
- 9 36
- 10 ③天皇誕生日



八月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原理一 慎んで申し上げます

親神様には子供かわいい一条の親心のままに 一列子供が陽気ぐらし出来るようにと常に慈愛溢れる御守護でお育て下さっており 中でも今は秋の稔りをより良きものにすべく暑さを楽しみとお与え下さっております事は誠に有難く勿体ない極みでございます 只それが異常な熱波になり人々の苦しみとなっておりますのは ひとえに自らの欲が招いてしまっている事と反省しつつ私共は日々かしかものかりもの理を朝夕に御礼申し上げ 親心と御守護の有難さを一人でも多くの人に伝えたいものと つとめの完成を目指しさづけを通してたすけ一条の御用の上に勤め励ませて頂いております

その中にも今日の吉日はこれの笠岡の理にお許し下さいました御祭日でございますので 只今からおつとめ奉仕者一同心を一つに睦び合って明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめて八月の月次祭を執り行わせて頂きます 御前には残暑厳しき中も厭いませず 今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達が相共にお歌を唱和し日々の御高恩に改めて御礼申し上げ 尚も変わらぬ親心にお継りする状を御覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて今年の子供おぢば帰りには二十五万人を越える参加者の御守護を頂戴したばかりでなく 常に大難は小難に小難は無難にとお連れ通り頂き 子供達の喜び一杯の姿をお見せ頂きました事を改めて御礼申し上げます そして子供おぢば帰りを目的とせずこれを丹精の糧として自らの成人を早めつつ 親の信仰を伝えて道の後継者育成に繋げて行く所存でございます 又来月はにいがけ強調の月とのお打ち出しを頂き 月末の二十八日から三十日は全教一斉ににいがけデーでございます 素直におぢばの声を聞き 親の理を受けて勤めるところに尚一層自由の御守護を頂戴出来る事を改めて肝に命じ 普段の月以上ににいがけおたすけにと邁進させて頂く覚悟でございます

何卒親神様には我さえ良くばの風潮に流されず 真実の親と慕い凭れてたすけ一条に邁進する皆の真実誠の心をお受け取り下さいまして 万たすけの上にも尚一層自由の御守護を賜り たすけ一条の親心に触れる人が次々と現れ 共にたすけ一条の道を歩む人が増し お望み下さる陽気ぐらしの世の状が一日も早く実現しますようお導きの程を 一同と共に慎んでお願い申し上げます

天理教 TENRIKYO THREE DAY COURSE 天理教 TENRIKYO THREE DAY COURSE 天理教 TENRIKYO THREE DAY COURSE
 三日講習会 DE SMILE 三日講習会 DE SMILE 三日講習会 DE SMILE

三日講習会の詳細は、

<http://tenrikyo-kyokaikusei.net/threeday/>

でご覧になれます。また、

http://tenrikyo-kyokaikusei.net/threeday/3day_wmv.html

では、5分間のビデオにより、三日講習会の様子を紹介しています。

大教会だより

II 教会指令 II

◎任命願

品治 分教会

*前任 渡邊 眞次

*新任 渡邊 泰造

☆奉告祭 立教170年11月4日

立教170年8月26日承認



呉 福 分教会

*前任 佐藤 昌平

*新任 佐藤 久枝

☆奉告祭 立教170年11月18日

立教170年8月26日承認



◎第七九四期修養科

自 立教170年6月1日
至 立教170年8月27日

*教 養 掛

三ヶ月間 杉原 博之

(明石市分教会長)

一ヶ月目 時宗 一実

二ヶ月目 福島 大介

(福満分教会長)

三ヶ月目 矢田 哲一

(八尋分教会長)

*修了者

福 芦 青山 透

福 芦 永戸 大希

芦 常 原 純子

真 金 猪原 恵み

上 備 折林 智子

の顔を見たときに・・・痛いことなど無い私！クゥー。

翌日、私の住む同じ市内で水難事故があり、親子が山中の溜池で泳いでいて、その親と高校生が水死されたのです。

年の梅雨明けが遅く、春頃からの異常気象？とも言われていたが、昨今のこの暑さは半端じゃない・・・連日35℃〜37℃と報じられてはいますが、气象台は多くの場合、高台の比較的涼しい所にあるのです。町の中とは桁違いの暑さであるように感じます。だから実際には40℃や50℃はあるのです。



教会での「お泊り会」この暑さから逃げるように海水浴に向いたのです。大きめの浮輪、3人乗りボート、シートなど装備して、入り江で遠浅の綺麗な海。いざ設営！足の

裏が焼けるような砂の上で汗だくの奮闘。子供達は「まくだダメー？」と完成を察知しての水泳の催促。さあ泳ぐぞ！っと、皆で飛び込んだ！「ウヒャー冷たい！」休憩をしたり、昼食などを挟んで疲れを知らない子供達は、海水浴を満喫し楽しんでくれました。

帰る頃になって、小学二年男子の浮輪が無くなっており、彼はションボリ・・・。

そう云えば、昼前に女の子の浮輪が風に流されて深みへ・・・二人がそれを追って行きそうになったが、私の怒号で戻ったから一難を逃れていたし、探しに行く事になった私・・・岩場の先の先に漂着していたのを持ち帰る途中で、岩場から滑り落ち、切り傷！擦り傷！打ち傷の三連単に塩水・・・(どんくさい年になったわ)しかし大喜びの男子

思い返せば、女の子が浮輪を追ったまま怒号が聞こえなかったら・・・私の打撲した場所が悪ければ・・・重傷であつたら・・・と、大難を小難に、無難にお連れ通り頂いたことでも、今は傷など全く痛くありません？私の不注意で、親神様に、借り物の身体に傷をつけたお詫びを申し上げ、又、小難を私にお見せ下さった親心に、改めて御礼申し上げます。この上は、近い将来「立派なよふぼく」になれる事を望み・・・そんな甘いことを思った今年の「お泊り会」でした。(に)

